

開設校	回数	時間	参加者数	主 な 内 容
八戸聾学校	6	18	91	運動会装飾作り、運動会参加、自然体験活動、合同奉仕作業、県特P連二北三八地区合同研修会参加、合同保護者集会
森田養護学校	3	10	59	工場見学を通しての交流、福祉サービス説明会、講演・演習「お母さんの笑顔が子どもを変える」
黒石養護学校	5	12	53	花の寄せ植え、弘前地区合同研修会参加、職場・施設見学、黒養祭「お楽しみコーナー」の運営、コサージュ作り
七戸養護学校	4	14	74	進路講話、障害者福祉施設見学、調理活動（そば作り）
むつ養護学校	5	15	179	プランター整備・花苗植え、施設見学、親子レクリエーション、父母学習会、二北三八地区合同研修会参加参加
合計	のべ回数 95 回	のべ時間 265 時間	参加者数合計 2,119 名	

【成果と課題】

保護者のニーズを反映させるように各校とも工夫をしながら内容を設定している。学校行事や青年学級と同時に開催することにより、地域の様々な方々と多く関わる機会となっている。

「障害者就労施設見学」は各校とも高いニーズのある内容であるが、今年度はバス代等の高騰により、内容の変更などを余儀なくされた。障害のある児童・生徒の父母等が、希望している家庭教育学級を開設し、障害のある児童・生徒の父母等が、就労等についての必要な知識が習得できるよう各校と連携をとりながら進めていきたい。

総合社会教育センター

高大連携キャリアサポート推進事業

【事業目的及び概要】

高校生の主体性や意欲を引き出すとともに、チャレンジする心を育むことを目的として、所定の研修を修了した大学生によるワークショップを計画的に実施する事業である。

【事業内容及び結果】

(1) ワークショップ「キャリアサポ」の実施

- ア 実施高等学校数 20 校
- イ 参加高校生数 3,066 名
- ウ 延べ参加大学生数 1,000 名

No.	月日	実施校	対象高校生	参加大学生
1	6/14 (土)	大湊高校川内校舎	1・2・3 学年 (3 クラス 112 名)	49 名
2	6/14 (土)	三戸高校	2 学年 (2 クラス 51 名)	32 名
3	6/21 (土)	黒石商業高校	1 学年 (4 クラス 141 名)	52 名
4	6/28 (土)	青森東高校	2 学年 (7 クラス 277 名)	86 名
5	7/ 5 (土)	青森北高校	3 学年 (3 クラス 92 名)	49 名
6	8/25 (月)	八戸西高校	1 学年 (6 クラス 240 名)	62 名
7	8/27 (水)	三本木高校	1 学年 (6 クラス 239 名)	61 名
8	8/29 (金)	青森西高校	1 学年 (6 クラス 240 名)	60 名
9	8/31 (日)	金木高校	1 学年 (2 クラス 38 名)	21 名
10	8/31 (日)	浪岡高校	1 学年 (2 クラス 61 名)	26 名
11	9/ 2 (火)	青森商業高校	2 学年 (6 クラス 232 名)	62 名
12	9/ 3 (水)	弘前中央高校	1 学年 (6 クラス 240 名)	63 名
13	9/ 5 (金)	三沢商業高校	2 学年 (5 クラス 182 名)	57 名
14	9/ 8 (月)	むつ工業高校	1 学年 (4 クラス 140 名)	47 名
15	9/ 9 (火)	田名部高校	1 学年 (5 クラス 194 名)	46 名
16	9/11 (木)	七戸高校	1 学年 (4 クラス 159 名)	41 名

17	11/ 8 (土)	木造高校深浦校舎	1・2 学年 (2 クラス 44 名)	52 名
18	11/15 (土)	中里高校	1・2 学年 (2 クラス 29 名)	26 名
19	3/ 4 (水)	野辺地高校	1 学年 (4 クラス 120 名)	45 名
20	3/ 6 (金)	青森中央高校	1 学年 (6 クラス 235 名)	63 名

(2) キャリア形成の支援

- ア 実施校担当者連絡会議(5/21)
- イ 大学生会議(5/11, 9/28, 3/22)
- ウ 実施校担当者等研修会(11/28)
- エ 大学生対象研修会の開催
 - 基本研修(計9回) 延べ受講者数217名
 - 応用研修(計4回) 受講者数28名

[成果と課題]

多くの大学生からの働きかけにより、高校生の意欲を引き出すワークショップ「キャリアサポ」を計画的、組織的かつ持続的に実施するための仕組みを安定的に維持することができた。また、ワークショップ実施後のアンケートにおいては、多くの高校生・教員から好評を得ることができた。

今後は、さらにキャリア形成の支援を推進するために、高校におけるワークショップをより効果的にするための活用策の確立、参加大学生の安定的確保、ワークショッププログラムの充実などの課題に取り組む必要がある。

高校生スキルアッププログラム推進事業

[事業の目的及び概要]

高校生の知識や経験の幅を広げるとともに、社会の変化に柔軟に対応し逞しく生きるための様々なスキルの向上を図ることを目的とし、学校外における学習への積極的な取組を推進する事業である。

[事業内容及び結果]

(1) 高校生スキルアッププログラムの運営

(2) 担当教員研修の実施

「キャリア教育研修会」の開催(高大連携キャリアサポート推進事業と共催)

- 開催日: 11/28(金)
- 会場: 県総合社会教育センター
- 対象: 高校生スキルアッププログラム担当教員
- 参加者: 24校29名
- 内容: 講演 「グローバル化とキャリア教育」
青森公立大学経営経済学部 教授 内海 隆
- 事例発表 高校生スキルアッププログラム推進事業
青森県立青森中央高等学校 教諭 石戸 裕朗
- 高大連携キャリアサポート推進事業
青森県立田名部高等学校 教諭 渡辺 守

(3) 評価サービス

平成26年度参加学校・参加生徒数・認定証交付者数

地区	学校数	参加生徒数	認定証交付者数
東青	6校	956名	9名
西北	1校	12名	2名
中南	2校	19名	0名
上北	3校	107名	2名
下北	1校	499名	16名
三八	5校	813名	11名
合計	18校	2,406名	40名

[成果と課題]

認定証を交付された高校生のレポートからは、本事業に参加することで幅広い知識を習得し、学習意欲とコミュニケーション能力が向上し、自主性や社会性が身につくとともに、精神面が逞しくなるなど、自己の成長を高めることに結びついていることがうかがえる。

認定証交付者数は増加傾向にあることから、本事業を活用して積極的に学校外学習に参加し、自己のスキルを向上させたいと考えている高校生が多くなっていると推測される。

なお、本事業に参加することで高い教育効果が期待できると、教員からも好評を得ているが、参加校数は減少傾向にあるため、学校単位でより多くの高校に参加してもらえよう働きかけていく必要がある。

未来の青森県を担う若人育成講座

【事業の目的及び概要】

青少年が自らの思いを社会の中で実現させる行動力を身につけることを目的として、学校や地域活動でリーダー的な役割を担っている青少年を対象に、自主性やリーダーの資質を高める講座を開催する事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 事業内容：対象地域 上北・三八地域 交流地域 西北・中南地域

ア 第1講座 自分や仲間のよさを知る講座

【6/28(土)～29(日) 公立小川原湖青年の家(上北・三八合同)】

(ア) 講義「八戸のまちづくり：こどもはっちと高校生ボランティア」

講師 NPOはちのへ未来ネット 代表理事 平間 恵美

(イ) 講義「十和田バラ焼きのめざすところ：地域活性化に向けて」

講師 十和田バラ焼きゼミナール 舌校長 畑中 宏之

(ウ) 演習「人間関係づくりプログラム」

指導 県総合社会教育センター職員

(エ) 演習「自分の街を元気にするために～中高生ができること～」

指導 県総合社会教育センター職員

イ 第2講座 グループ運営方法を学ぶ講座

【7/26(土) 八戸市立長者公民館(三八)】

(ア) 講義「社会福祉協議会の活動をとおして：高校生がボランティア活動をすることの意義」

講師 八戸市社会福祉協議会 事務局長 浮木 隆

(イ) 演習「人間関係づくりプログラム」

指導 県総合社会教育センター職員

(ウ) 演習「私たちの地域実践活動～企画・運営について～」

指導 県総合社会教育センター職員

【7/27(日) 十和田市南公民館(上北)】

(ア) 演習「人間関係づくりプログラム」

指導 県総合社会教育センター職員

(イ) 演習「我が街の良いところ」

指導 県総合社会教育センター職員

(ウ) 講義「ハピたのの活動をとおして：人と人がかかわる意義」

講師 十和田NPO子どもセンター・ハピたの 代表理事 中沢 洋子

ウ 第3講座 地域の実践活動を体験し、仲間と企画を立てる講座

【8/9(土)～10(日) 公立小川原湖青年の家(上北・三八合同)】

(ア) 演習「人間関係づくりプログラム1」

指導 県総合社会教育センター職員

(イ) 体験活動「地域活動体験」

[鷹山宇一記念美術館／南部縦貫鉄道旧上北駅(七戸町観光協会)／東北町立上北小学校・東北町立小川原小学校(放課後子ども教室)／公立ぎんなん寮]

(ウ) 演習「活動報告」

指導 県総合社会教育センター職員

(エ) 演習「人間関係づくりプログラム2」

指導 県総合社会教育センター職員

(オ) 演習「地域実践活動企画立案とシミュレーション1」

指導 県総合社会教育センター職員

(カ) 演習「地域実践活動企画立案とシミュレーション2」

指導 県総合社会教育センター職員

- エ 第4講座 地域実践活動を準備する講座
【9/20(土) 十和田市南公民館(上北)】
 (ア)演習「第5講座に向けて1」
 指導 県総合社会教育センター職員
 (イ)演習「第5講座に向けて2」
 指導 十和田NPO子どもセンター・ハピたの 代表理事 中沢 洋子
【9/21(日) 八戸市立長者公民館(三八)】
 (ア)演習「第5講座に向けて1」
 指導 県総合社会教育センター職員
 (イ)演習「第5講座に向けて2」
 指導 NPOはちのへ未来ネット 代表理事 平間 恵美
- オ 第5講座 地域実践活動を実行する講座
【10/12(日) 八戸ポータルミュージアム はっち(三八)】
 企画実践「～とりかえっこのまほう～」
【10/13(月・祝) 十和田NPO子どもセンター・ハピたの(上北)】
 企画実践「～とわだわくわくだいはっけん～」
- カ 第6講座 地域実践活動を振り返る講座
【11/1(土) 八戸市立長者公民館(三八)】
 (ア)演習「第5講座の振り返り」
 指導 県総合社会教育センター職員
 (イ)演習「本講座で得たこと」
 指導 県総合社会教育センター職員
 (ウ)演習「若者の社会貢献」
 講師 NPOはちのへ未来ネット 代表理事 平間 恵美
 講師 八戸工業大学第二高等学校 教諭 田代 誠
【11/15(土) 十和田市東公民館(上北)】
 (ア)演習「第5講座の振り返り」
 指導 県総合社会教育センター職員
 (イ)演習「本講座で得たこと」
 指導 県総合社会教育センター職員
 (ウ)演習「若者の社会貢献」
 講師 十和田NPO子どもセンター・ハピたの 代表理事 中沢 洋子
- キ 第7講座 隣接地域との交流
【12/13(土)～14(日) 公立小川原湖青年の家 <上北・三八合同>】
 (ア)演習「人間関係づくりの体験プログラム1」
 指導 県立梵珠少年自然の家 社会教育主事 横山 仁志
 (イ)活動発表「活動実践発表」
 指導 県総合社会教育センター職員
 (ウ)演習「人間関係づくりプログラム」
 指導 県総合社会教育センター職員
 (エ)演習「人間関係づくりの体験プログラム2」
 指導 県立梵珠少年自然の家 社会教育主事 横山 仁志
 (オ)演習「活動の振り返り」
 指導 県総合社会教育センター職員
- (2) 対象地域の受講者人数 53名(上北・三八地域)
 (3) 交流地域の受講者人数 6名(西北・中南地域)

【成果と課題】

参加者にコミュニケーション能力の向上が見られ、自信がついた様子うかがえた。また、校種、学年を越えて、参加者間のつながりをつくることができた。地域実践活動では、自分や仲間の良さ、強み、講座での学びを活かし、協力し合いながら、自分たちで企画を考え、準備、運営を行い、来場者からも好評であった。

今後は、参加者が自発的にさらなる実践活動ができるよう講座内容を充実させていく必要がある。

学校と地域の協働実践セミナー

【事業目的及び概要】

未来を担う子どもたちを健全に育成するため、地域ぐるみで子どもたちを育む意識や主体的な取組を啓発するとともに、学校と地域の協働を推進する人財及び子どもたちの育成に関わる活動実践者を養成することを目的として、研修を行う事業である。

【事業内容及び結果】

- 対象：子どもと関わる地域活動実践者、地域住民、教職員など
- 受講者数：延べ218名

(1) 公開講演・パネルディスカッション

【開催日】7/30(水) 【参加人数】72名 【会場】県総合社会教育センター

【内容】「地域ので子どもたちを育てよう」

～放課後子ども教室と一体となった学校支援活動～

【講師・パネリスト】仙台市立西中田小学校 学校支援地域本部

西中田こみこみスクール スーパーバイザー

山川 由紀子

【パネリスト】八戸市立日計ヶ丘小学校 学校支援コーディネーター

小松 和恵

今別町 学校支援コーディネーター

工藤 清子

【コーディネーター】弘前大学生涯学習教育研究センター 講師

深作 拓郎

(2) 地区研修会

開催地区	内 容
東 青	<p>【開催日】6/24(火) 【参加人数】31名 【会場】県総合社会教育センター</p> <p>【講義】「地域の人たちの学校応援団」</p> <p>【演習】「学校支援活動充実のために」</p> <p>杉並区立杉並第一小学校 学校支援本部本部長 学校教育コーディネーター 伴野 博美</p> <p>【事例発表】深浦町立修道小学校 学校支援コーディネーター 世永 恵美子</p>
三八・上北	<p>【開催日】6/25(水) 【参加人数】31名 【会場】八戸市総合福祉会館</p> <p>【講義】「地域の人たちの学校応援団」</p> <p>【演習】「学校支援活動充実のために」</p> <p>杉並区立杉並第一小学校 学校支援本部本部長 学校教育コーディネーター 伴野 博美</p> <p>【事例発表】十和田市立北園小学校 教諭 一戸 稔彦</p>
下 北	<p>【開催日】7/2(水) 【参加人数】14名 【会場】下北文化会館</p> <p>【講義】「学校・家庭・地域の連携と子どもの成長」</p> <p>【演習】「学校支援活動充実のために」</p> <p>八戸学院短期大学 学長補佐 茂木 典子 ライフデザイン学科 学科長・教授</p> <p>【事例発表】五戸町立五戸小学校 学校支援コーディネーター 川岸 祥子 ・ 外崎 久美子</p>
西北・中南	<p>【開催日】9/18(木) 【参加人数】24名 【会場】五所川原市民学習情報センター</p> <p>【講義】「学校・家庭・地域の連携と子どもの成長」</p> <p>【演習】「学校支援活動充実のために」</p> <p>青森市立橋本小学校 前校長 スクールカウンセラー 長尾 慶子</p> <p>【事例発表】八戸市立小中野中学校 学校支援コーディネーター 中村 奈津世</p>

(3) コーディネーター力養成講座

第1回	<p>【開催日】11/10(月) 【参加人数】21名 【会場】県総合社会教育センター</p> <p>【講義・演習】「学校のしくみ」「最近の子どもたち」</p> <p>弘前大学教育学部 特任教授 齋藤 厚</p>
-----	---

第2回	【開催日】 11/26(水) 【参加人数】 25名 【会場】 県総合社会教育センター 【講義・演習】 「コミュニケーションのとりかた」 県総合社会教育センター職員 【演習】 「チラシを作ろう」 有限会社ティーマックス 代表取締役 高橋 ツトム
-----	--

〔成果と課題〕

学校の支援に必要な知識、技術、最新情報等のニーズを踏まえた内容の研修会を実施したことにより、関係者の資質向上と学校支援活動の推進につながった。学校支援実践者は、年齢、職種、知識、経験等が多様で、ボランティア精神に基づいて活動していることから、いかにモチベーションを維持・向上できるかが課題となるため、受講者のニーズを踏まえながら研修会を開催していく必要がある。

絆でつながる家庭教育支援セミナー

〔事業目的及び概要〕

地域全体の絆の中で子育てを支え、子どもたちが健やかに成長するための環境づくりや子育ての地域課題解決に役立つノウハウを学ぶことを目的として、地域に根ざした家庭教育支援者を育成する事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 基礎コース開催市町村と応用コース開催市町村の2つのコースが交流しながら講座の企画・運営について学ぶ。

○場 所：県内4市町村（2地区2市町村）

- ・上北地区 七戸町—基礎コース
おいらせ町—応用コース
- ・東青地区 蓬田村—基礎コース
今別町—応用コース

○参加者：受講者数 62名 実践活動参加者数 179名

ア 基礎コース

- (ア) 家庭教育支援基礎講座(家庭教育の現状と課題等)
- (イ) プログラムづくり講座(入門編)
- (ウ) 応用コースのプログラム実践参加(評価)
- (エ) プログラム実践
- (オ) スキルアップ講座(プログラム実践を受けて)
- (カ) 共通スキルアップ講座(応用コースと共通)

イ 応用コース

- (ア) 家庭教育支援講座(家庭教育の現状と課題等)
- (イ) プログラムづくり講座(応用編)
- (ウ) プログラム実践
- (エ) 基礎コースのプログラム実践参加(評価・助言)
- (オ) スキルアップ講座(プログラム実践を受けて)
- (カ) 共通スキルアップ講座(基礎コースと共通)

開催地区・コース	回	開催日	内 容
上北地区 基礎コース (七戸町会場)	1	6/3(火)	講義・演習：家庭教育支援基礎講座「子育て親育ち」～家庭教育を考える～ 講師：青森県立保健大学 教授 中村 由美子
	2	6/10(火)	演習：「絆づくりプロジェクト」～地域に受け入れられるプログラムづくり基礎編～ 講師：県総合社会教育センター職員
	3	7/12(土)	応用コースの活動実践に参加
	4	7/26(土) (活動実践プログラム)	活動実践：「あなたの健康プロジェクト in 七戸～家族で乳製品作りとウォーキングを楽しもう～」 講師：雪印メグミルク 食育スタッフ 大塚製薬 ニュートラシューティカルズ 事業部スタッフ メディカルフィットネスいぶき 鈴木 光広

26年度事業の実績

中 南 地 区	応用 コース (おいらせ町会場)	1	5/21(水)	講義・演習：「家庭教育支援基礎講座」～家庭教育支援者として地域で活躍する人たちへ～ 講師：青森県立保健大学 教授 中村 由美子
		2	5/27(火)	演習：「絆づくりプロジェクト」～地域に受け入れられるプログラムづくり応用編～ 講師 県総合社会教育センター職員
		3	7/12(土) (活動実践 プログラム)	活動実践：「家族でつくろう！あそぼう！手作りおもちゃと和洋Wスイーツ」 講師：おいらせ町食生活改善推進協議会会員 北向 直子 ケーキのヒマラヤ 新館 恵
		4	7/26(土)	基礎コースの活動実践に参加
	共通	5	8/6(水) (七戸町会場)	演習：プログラム実践を終えて 講義：「地域が求める家庭教育支援の実際」～地域で活躍し生き残る支援者～ 講師：NPO 法人子育て応援隊ココネットあおもり代表 沼田 久美
		6	8/20(水) (おいらせ町 会場)	講義・演習：「子どもの育ちと親の学びを支えるー地域ぐるみの子育て・親育ち支援プログラムについて考えるー」 講師：青森県立保健大学 教授 中村 由美子
中 南 地 区	基礎 コース (蓬田村会場)	1	9/2(火)	講義・演習：家庭教育支援基礎講座「子育て親育ち」～家庭教育を考える～ 講師 青森県立保健大学 教授 中村 由美子
		2	9/17(水)	演習：「絆づくりプロジェクト」～地域に受け入れられるプログラムづくり基礎編～ 講師：県総合社会教育センター職員
		3	11/3(月)	応用コースの活動実践に参加
		4	11/16 (日) (活動実践 プログラム)	活動実践：「キラめきプロジェクト ～健康は食と美～」 講師：食育インストラクター 森 順治 美容アドバイザー 諏訪 淳子
	応用 コース (今別町会場)	1	8/27(水)	講義・演習：「家庭教育支援基礎講座」～家庭教育支援者として地域で活躍する人たちへ～ 講師：青森県立保健大学 教授 中村 由美子
		2	9/9(火)	演習：「絆づくりプロジェクト」～地域に受け入れられるプログラムづくり応用編～ 講師 県総合社会教育センター職員
		3	11/3(月) (活動実践 プログラム)	活動実践：「ウッドでグッドなハッピータイム」 講師：県立梵珠少年自然の家 社会教育主事 佐藤 元伸
		4	11/16(日)	基礎コースの活動実践に参加
共通	5	11/25(火) (蓬田村会場)	演習：プログラム実践を終えて 講義：「地域が求める家庭教育支援の実際」～地域で活躍し生き残る支援者～ 講師：NPO 法人子育て応援隊ココネットあおもり代表 沼田 久美	
	6	12/10(水)	講義・演習：「子どもの育ちと親の学びを支えるー地域ぐるみの子育て・親育ち支援について考えるー」 講師：青森県立保健大学 教授 中村 由美子	

(2) 子どもたちの未来をはぐくむためのセミナー

(絆でつながる家庭教育支援セミナー総まとめ研修会兼平成 26 年度家庭教育支援情報交換会)

ア 開催日時	11月14日(金) 10:00～15:00
イ 会場	県総合社会教育センター
ウ 内容	<p>【公開講演】 「地域で活躍する家庭教育支援者に必要なこと～思いと技～」 講師：児童書作家 杉山 亮</p> <p>【パネルディスカッション】 「地域で活躍する家庭教育支援者に必要なこと」 コーディネーター：青森県立保健大学 教授 中村 由美子 パネリスト：①杉山 亮 ②おいらせ町教育委員会 放課後子ども教室コーディネーター 浜田 祐子 (絆でつながる家庭教育支援セミナー受講者)</p>

エ 参加者数	③弘前市立文京小学校 P T A会長 工藤 貴子 (あおり家庭教育アドバイザー養成講座受講者) ④青森市教育委員会社会教育課 主査(家庭教育担当) 杉山 明子 【情報交換会】 「地域で活躍する家庭教育支援者に必要なこと ～自分たちの活動を地元において充実、発展させるために～」 助言者：杉山 亮 53名
--------	---

【成果と課題】

家庭教育基礎講座やスキルアップ講座等を通して、現代の子育ての現状と課題について学び、さらに地域性を生かした学習プログラムを企画・立案し、実践することで、より深く地域の現状と課題を知るきっかけとなった。また、セミナー終了後も参加者に一定のノウハウが蓄積されたことで、参加者自らアレンジを加えながらプログラム実践を実施している市町村が徐々に出てきている。今後も、本事業により育成された支援者が各地域で活躍しやすい環境を整えるための学習機会を増やし、更なる家庭教育支援者の育成に努め、支援に関わる人たちの輪を広げていく必要がある。

家庭教育支援コンテンツ制作事業

【事業目的及び概要】

子育てに関わる人々の抱える不安や悩みを払拭し、家庭教育の重要性を広く知らせることを目的として、家庭教育支援コンテンツ及び家庭教育支援啓発教材を制作し、子育てに関する情報を普及させる事業である。

【事業内容及び結果】

- (1) 家庭教育支援コンテンツ制作企画委員会 (6名)
 - ア 第1回制作企画委員会 5/21 (水)
 - イ 第2回制作企画委員会 6/18 (水)
 - ウ 第3回制作企画委員会 9/3 (水)
 - エ 第4回制作企画委員会 2/12 (木)
- (2) 家庭教育支援コンテンツの制作 (各5分)
 - ア いろいろな情報の中での子育て
 - イ スマホ我が家のルール
 - ウ 食べ物から学ぶ
 - エ 思春期、どう接してる？
 - オ ハンディキャップをみんなで支える
 - カ 二世帯住宅～頼り、頼られ互いの思い～
 - キ 地域とつながるリサイクル活動 (中学校編)
 - ク ステキな大人とこんにちは～地域交流会を通して～ (小学校編)
 - ケ 地域の親子を巻き込んだ子どもまつり (NPO編)
 - コ 地域で活躍し続ける家庭教育支援者 (家庭教育支援団体編)
- (3) 家庭教育支援啓発教材の制作 (各15分)
 - ア 直輝くんを家族・地域・仲間で支える
 - イ ふるさとを誇れる子どもに
- (4) 家庭教育支援コンテンツ及び家庭教育支援啓発教材の活用
 - ア 制作したコンテンツ及び教材をホームページで配信
 - イ 各関係機関へDVD教材として配布
 - ウ 平成26年度絆でつながる家庭教育支援セミナーでの活用
 - エ 家庭教育支援団体、保育園、幼稚園等の研修会での活用

【成果と課題】

「家庭と地域」を中心とした視点から、家庭教育支援コンテンツ及び家庭教育支援啓発教材を作成し、DVD教材として学校や子育て団体等に配布し、さらにホームページでの動画配信を行うことで、家庭教育の重要性を伝えることができた。今後はDVD視聴後の意見や感想や各研修会等での情報を集めるなど、保護者や家庭教育支援者等が求めるニーズも分析しながら、コンテンツ等のテーマを決め作成していく必要がある。

家庭教育相談事業

[事業目的及び概要]

就学前児童から高校生の子を持つ親や家族に対して、気軽に相談できる家庭教育相談を目指し、過剰になりがちな子育て情報の中から、相談者に適切な情報を提供し、子育て中の不安や悩みを払拭することを目的として、寄り添い型の家庭教育相談を行う事業である。

[事業内容及び結果]

- 対象：就学前児童から高校生までの子育て・孫育て中の親と家族
- 実施方法：電話相談・週2回 火・木曜日(祝日・年末年始を除く)13:00～16:00
メール相談・24時間受付
- 場所：県総合社会教育センター1階 電話相談室(職員室内)
- 対応内容：発育・発達、しつけ、対人関係などの子どもに対する悩みや家庭教育全般について
- 相談体制：県総合社会教育センター家庭教育担当職員及び家庭教育支援員が対応
- 相談件数：45件(電話相談29件、メール相談15件、面接相談1件)

[成果と課題]

相談内容は、問題行動、養育・しつけ、対人関係に関するものなど、多岐にわたったが、他の相談機関と連携しながら、相談者の悩みや不安を取り除くことに寄与することができた。また、アピオあおもり子ども家庭支援センターとの連絡会議を年2回開催して連携を深めることができた。さらに、相談内容によっては学校教育課や総合学校教育センターとも情報共有を図り、相談対応の充実につなげた。

今後、県総合社会教育センターに家庭教育相談窓口があることを、チラシやポスター配布の他、様々な研修会等で家庭教育支援コンテンツをも活用しながらPRを図っていく必要がある。

県立図書館

子どもの読書活動推進のための図書セット貸出事業

[事業目的及び概要]

子どもの読書活動の環境づくりを進めることを目的とし、市町村立図書館等に対して図書セットを貸出し、学校等に配本する事業である。

[事業内容及び結果]

図書セットの内容	利用対象	前期		後期	
		配本先	配本冊数	配本先	配本冊数
1 小学校	低学年	61	3,800	55	3,600
	中学年	62	3,920	56	3,700
	高学年	62	3,920	56	3,740
2 中学校	中学校	6	240	6	240
3 読み聞かせ絵本 児童書等	保育所等	45	4,050	46	4,080
4 大型絵本	読み聞かせ活動者	53	815	55	855
5 テーマ別 図書セット	小・中学校 特別支援学校	9	480	14	613

[成果と課題]

市町村立図書館による学校図書館等との連携を支援することができている。

毎年度、図書セットを利用してもらえるように、図書セット内容を更新していく必要がある。

梵珠少年自然の家

梵珠少年自然の家主催事業（親子のつどい、子どものつどい）

【事業目的及び概要】

参加者相互のふれあいを深めながら、自然について学ぶとともに、自然に親しむ態度や豊かな心を育てることを目的として、自然の中で多様な体験活動を行う事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 親子のつどい

活動名	期日	対象	参加人員	内容
①春・いーっぱい	5/11(日)	小・中学校の児童生徒とその保護者	39名	自然観察、摘み草体験、摘み草料理
②虫の世界をのぞいてみよう	8/23(土)～ 24(日)		33名	昆虫の採集と観察
③秋・みーつけた	10/5(日)		31名	ネイチャーゲーム、野外料理体験
④梵珠わくわく体験ランド	10/26(日)		22名	ネイチャークラフト、ビンゴオリエンテーリング、ウォークラリー
⑤門松をつくろう	12/20(土)・ 21(日)		214名	本格門松づくり
⑥冬にとびだそう	1/31(土)～ 2/1(日)		43名	スノーシューハイキング、そり遊び、雪灯籠づくり、キャンドルナイト、雪上ランチ

(2) 子どものつどい

活動名	期日	対象	参加人員	内容
①アウトドアライフ 2014in サマー	8/5(火)～ 9(土)	小学校 5年生から 中学校 3年生まで	42名	いかだづくり・いかだ遊び、ロープワーク、登山、野外ゲーム、野外炊事、テント泊、キャンプファイヤー
②アウトドアライフ 2015in ウィンター	1/9(金)～ 11(日)	小学校 5年生から 中学校 3年生まで	36名	そり遊び、スノーシューハイキング、キャンドルサービス、メモリアルクラフト、野外炊事

【成果と課題】

「親子のつどい」では各分野に造詣の深い講師の指導による四季折々の自然体験活動や、参加者同士のふれあいを深める活動、親子が協力して取り組む活動など、多様な体験活動を実施した。いずれの事業においても参加者の満足度は高く、今年度も充実した体験活動を実施できたと考えている。中でも、「門松を作ろう」は一昨年度から2日間の開催とし、募集定員を200名にまで増やして実施したが、今年度も定員を上回る応募状況が続いている。一方で、「梵珠わくわく体験ランド」は募集定員に満たない状況であり、実施時期や内容について見直しが必要である。

「子どものつどい」では、夏は悪天候により、大幅な内容変更を余儀なくされたが、代替プログラムの実施により4泊5日の日程を無事に終了することができた。冬は例年どおり冬季休業中に2泊3日で実施した。どちらの事業においても、自然の豊かさや厳しさを実感する中で、仲間と協力して取り組み、達成したことによる成就感や周囲への感謝の気持ち、更には、自らの成長を実感している様子が窺われる感想が多く寄せられており、事業の目的は達成できたと考えている。ただし、冬は昨年度より参加者が増加したが、募集定員には満たない状況であることから、引き続き、その要因を把握し、対策を講ずる必要がある。

自然体験活動支援事業

【事業目的及び概要】

自然体験活動の促進を図ることを目的として、身近な自然環境を活用して子どもたちが効果的に体験活動ができるよう、少年自然の家の職員が指導、助言などの支援を行う。また、指導者としての基礎的な技能の習得を目的とし、青少年向けの自然体験活動を効果的に行うための野外活動プログラムの実技

等について研修する事業である。

【事業内容及び結果】

活動名	期 日	対象	参加人員	内容
①レッツエンジョイ！ 自然大好きっず	4～5月、 10～3月	小学校、中 学校、特別 支援学校、 PTA、青 少年団体等	30 団体 1,773 名	キャンプ体験、スノーシュー体験、 雪上運動会、雪灯籠づくり、棒パン づくり、焼いもづくり、アイスクリ ームづくり、梵珠ブーメラン、チャ カポコけん玉、フォトフレーム、バ ードコール、森からのプレゼント等
②自然体験活動研修会	5/17(土) ～18(日)	青少年教 育、自然体 験活動に興 味のある方	17 名	実習：ビンゴオリエンテーリング、 プロジェクトワイルド&WET、テ ント設営、ダッチオープン料理、ウ ッドクラフト、野草のてんぷら&手 打ちうどん

【成果と課題】

職員が直接出向いて支援する「レッツエンジョイ！自然大好きっず」では、学校、子ども会が減少した一方、PTA関係と児童館が増加したことにより、利用団体数は昨年度より2団体増加した。今年度も各団体のニーズに応じ、キャンプ体験などの野外活動、森からのプレゼントなどの自然物を使った創作活動、雪灯籠づくりなどの雪を使った活動など、多様な自然体験活動の場を提供し、どの団体からも良い評価を得ることができた。

「自然体験活動研修会」は対象を指導経験の有無を問わず、興味・関心のある者にも広げたことにより、昨年度より参加者を増やすことはできたが、募集定員には達しておらず、周知方法や開催時期について更なる見直しが必要である。

在学少年宿泊指導者研修

【事業目的及び概要】

少年自然の家での宿泊学習や自然教室等を利用団体が効果的に行うことを目的として、活動プログラムの内容や、施設・設備の利用の仕方等について研修するとともに、利用する際の日課表を作成する事業である。

【事業内容及び結果】

期 日	対象	参加者数	内容
4/21(月)～ 22(火)	平成26年度利用 予定団体及び今 後利用を考えて いる団体の引率 者	116 名	講義：宿泊体験学習における効果的な自然の家の 利用 実技体験：創作・野外・室内の各活動プログラム 説明：施設利用に当たっての留意点他 演習・実践：日課表の作成

【成果と課題】

昨年度と同様に、講義の中で安全管理に多く時間を配分するとともに、創作及び野外の実技体験の時間を最大限確保して実施した。ただし、今年度は、野外炊事を参加者全員で行うこと、講義を2日目に実施することに変更した。その結果、野外炊事を実施する団体が増加し、ほぼ全参加者に講義を聴いてもらうことにより、体験学習の意義や安全対策など、効果的な利用について、認識を職員と共有する機会とすることができた。今年度も、アンケートに対し、この事業に参加したすべての団体が自然の家の利用が目的達成に役立ったと回答していることから、事業の目的は達成されたと考えている。

ファミリー防災キャンプ事業

【事業目的及び概要】

災害時における実践的な対応能力及び万が一の場合に備える態度を育成することを目的として、様々な災害の状況を想定し、親子で各種体験を行う事業である。

【事業内容及び結果】

期 日	対 象	参加者数	内 容
11/8(土)～9(日)	小・中学校の児童生徒とその保護者	28名	報告：被災地の実態 実習：焚火で調理、ロープワーク 講義・実習：災害時の栄養と食事、災害と避難所 演習：我が家の防災計画

【成果と課題】

自宅に留まることはできるが、ライフラインが断絶した場合や、避難所への退避が必要な場合など、様々な災害の状況に対応した食事作りや生活を体験したり、被災時の各自の動向を考え、家族の防災計画を作ったりするなど、多様な体験の場を提供したことにより、参加者が災害に対する備えを日頃から考え、実践する契機とすることができた。

一方で、参加者が募集定員に満たなかったことから、開催時期や周知方法を検討する必要がある。

種差少年自然の家

種差少年自然の家主催事業（自然と遊ぼう、子どもの祭典）

【事業目的及び概要】

小・中学生が家族や仲間とのふれあいを深めながら、心豊かでたくましい子どもに育てることを目的として、自然体験活動やキャンプ活動、創作活動など様々な活動を体験する機会を提供する事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 自然と遊ぼう

活動名	期 日	対 象	参加者数	内 容
たねさしワールド 「春のハイキング」	5/18(日)	小・中学生とその保護者	98名	春の自然を楽しもう (種差海岸ハイキング等)
たねさしワールド 「エンジョイ！海遊び」 ①② ※2回開催	7/5(土)		82名	海で思いっきり遊ぼう (いかだ、カヌー、サンドクラフト、磯遊び等)
	7/6(日)		117名	
たねさしワールド 「親子の絆」	9/27(土) ～28(日)		22組 61名	親子で泊まって楽しもう (野外遊び、ツリーイング、ナイトハイク 親子パンづくり等)
たねさしワールド 「つくって新発見」	12/7(日)		78名	つくって楽しもう (しめ飾り、門松づくり)
たねさしワールド 「エンジョイ！雪遊び」 ①② ※2回開催	1/31(土)		92名	雪で思いっきり遊ぼう (スノーチューブすべり、そり遊び、 たこ揚げ、せんべい焼き等)
	2/1(日)		106名	
たねさしワールド 「こども大作戦」①② ※2回開催	2/14(土) ～15(日)	小3年 ～4年	44名	子どもだけで泊まって楽しもう (仲間づくりゲーム、屋内ツリーイング 夜の森探検等)
	2/28(土) ～3/1(日)	小1年 ～2年	44名	

(2) 子どもの祭典

活動名	期 日	対象	参加者数	内 容
おいでよ！ サマーキャンプ	7/28(月) ～31(木)	小5 ～中3	41名	・テントでの宿泊体験 ・野外炊事 ・ドラム缶風呂体験 ・海での活動 等
わくわくどきどき ウィンターキャンプ	12/24(水) ～26(金)	小5 ～中3	25名	・冬のテント泊の体験 ・カーリング ・キャンドルサービス ・冬の森野外活動(和かんじき体験)等

【成果と課題】

「自然と遊ぼう」では参加の親子や友達同士のかかわりを深めながら、自然の中での活動を存分に楽しむ様子が見られた。アンケート結果から参加者の満足度も極めて高い評価を得ることができ、心豊かでたくましい子どもの育成に貢献できたと感じている。

「子どもの祭典のサマーキャンプ」は海水浴やドラム缶風呂等の体験を仲間と交流しながら楽しんだ。「ウィンターキャンプ」は、季節の特性を活かした和かんじき(岩手県立県北青少年の家と交流し体験)を履いての森散策、アニマルトラッキングなど冬の自然を楽しんだ。非日常的な生活体験から人や物に感謝、自然の美しさに感動、厳しい冬の自然の中でたくましく生き抜く動物に驚嘆するなど、心豊かでたくましい子どもを育むという目的を達成することができたと感じる。

事業内容が認知され、希望者が定員を超えている状況である。活動の安全を確保しながら多くの参加者を受け入れることができるよう、内容や持ち方を工夫しながら事業を充実させていきたい。

自然体験活動支援事業

【事業目的及び概要】

学校や身近な野外活動場所で子どもたちに自然体験活動の場を提供することを目的として、種差少年自然の家職員が現地に出向いて自然体験活動の実地支援を行う。また、自然体験活動の指導者の資質向上を図ることを目的として、小中学校及び関係機関等の指導職員を対象に研修を行う事業である。

【事業内容及び結果】

活動名	期 日	対象	参加者数	内 容
自然体験活動 出前講座	4・5月 及び 10月～3月	三八、上北管内の 小・中学校、児童館、 公民館、青少年団体 や成人団体等 ※15名以上の団体	69団体 延べ 10,049人	・種差少年自然の家のプログラムの中 で出前対応可能なもの (せんべい焼き、どんぐりアート、動 物マグネット、フライパンピザ等)
自然体験活動 研修会	6/7(土) ～8(日)	幼・小・中学校教員、 高校・大学生、その 他自然体験活動の 指導者等	34名	・アドベンチャーゲームや野外活動 ・野外炊事や創作活動等のプログラム 実習 ・緊急対応訓練

【成果と課題】

自然体験活動出前講座が広く認知されイベントへの参加依頼が増えるなど利用者数が増加している。公民館、仲よしクラブ等の多くの方々に利用していただくことで自然体験活動の場を提供でき、目的を達成することができた。

自然体験活動研修会は、野外体験活動の楽しさや技能の幅を広げることで、資質向上が図られた。また、落雷事故防止のための落雷の危険性、避難方法の研修を実施し、緊急時の引率者の対応、施設職員との連携のあり方について実践的に学ぶことができた。

参加者が定員を割っているが、参加者の満足度は高く、概ね目的を達成できたと感じている。今後は、広報活動等の改善を図り、自然体験活動研修会の参加者が増えるよう工夫をしたい。

在学少年宿泊指導者研修

〔事業目的及び概要〕

種差少年自然の家を利用する小・中学校の引率教員を対象に、自然体験・生活体験を通して児童・生徒の「生きる力」をはぐくむために必要な知識・技能の習得を目的として研修する事業である。

〔事業内容及び結果〕

- 開催日：4/21(月)～22(火)
- 対象：平成26年度利用小・中学校及び特別支援学校の引率教員
- 参加人数：75名
- 内容：講義 社会教育施設としての少年自然の家、自然の家の効果的な利用の仕方
実習 活動プログラムの実習（野外、自然、創作活動、夜の活動）、施設等の利用方法
演習 活動計画の立案、プログラムの相談、事前打合せ、確認

〔成果と課題〕

限られた時間の中で参加者は講義や説明・自然災害等による緊急時の安全対策の確認・プログラム実習・打合せ等に意欲的に臨み、自らが活動や生活体験をすることで、宿泊学習の引率者として必要な知識や技能を学ぶことができた。また、事前に利用方法についてのQ&Aを確認し、日程表を作成して参加する学校が増え、同時利用校同士の話し合いが円滑に進められてきている。さらに、6月から9月末までの落雷事故の危険についての研修及び事故防止の対応を確認することで、安全対応や計画の変更等に大きな混乱や事故等がなく、この研修が生かされたと感じており、目的は概ね達成することができたと考えている。

親子で学ぶ防災キャンプ事業

〔事業目的及び概要〕

避けることのできない自然災害に遭遇したとき、災害時における実践的な対応能力を育むことを目的として、小・中学生の家族を対象に行う研修事業である。

〔事業内容及び結果〕

活動名	期 日	対象	参加者数	内 容
親子で学ぶ 防災キャンプ	11/8(土) ～9(日)	小・中学生とその保 護者	11組 27名	・物品搬入、避難所整備、避難所泊体験 ・停電・断水状況での食事づくり ・災害時に役立つ物づくり ・身近なものを使っての応急処置等

〔成果と課題〕

参加者から「自他の命を守るための知識、技術を学ぶことができた。」「人との関わりや協力、節水の大切さ等を体験を通して学ぶことができた。」「つらい、不安、苦しいといった思いだけでなく、アイデアを出して、災害にあっても生き抜こう、生活しよう、そんなたくましさや前向きな気持ちの大切さを学ぶことができた。」という感想があり、目的は概ね達成することができたと考えている。

現代社会のニーズはあるが参加者が少なかった。広報活動等の改善を図り、参加者が増えるよう工夫をしたい。